

獣害対策講座 Vol.10

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

大崎町のみなさん、あけましておめでとうございませう。今年もよろしくね。じゃあ、さっそく、はじめまーす。

おさらいと予習

前回

前回は人間の身勝手な悪者にされ、なぜ殺されなきゃいけないのかも分らないで命を絶たれた駆除イノシシ。せめて供養の意味でありがたくいただきました。って獣害対策からはちよつと横道的なグルメ話でしたよね。

今回

原発事故のあと、殺されても決して食べてもらえないことのない南相馬や浪江町のイノシシたち。いまだ除染が進まない野山には「高濃度汚染、立ち入り禁止区域」であることを示す無情なロープ。でも、そのロープが伝えるメッセージは人間以外には絶対に伝わらない。

今回はこの『メッセージ』をキーワードに、ヒトから動物へのメッセージと人から人へのメッセージについて考えまーす。

人から動物へ

人間以外にメッセージが伝わらない福島県のロープみていてふと思った。

獣害対策って野生の動物たちに『ここはあなたたちの来るところじゃない』ってメッセージさえ伝えればいいだけだつて。

例えば舗装道路ってモンシロチョウに「いくら探してもアスファルトにはキャベツはないよ」ってメッセージ発信してるし、ため池はカエルやトンボに「ここに卵を産めば子供が育つよ」ってメッセージ送ってる。柵を設置しても突破されるっていうのは動物に来るな、入るな、ってメッセージを送り損ねた柵ってことなのね。

獣害対策ってなんのためにやるのかというと、それは農作物や集落を獣から守るためなんだけど、結局は動物に来るなってメッセージ伝わらなきゃ、いくらお金や手間暇かけても意味ないってこと。

負のメッセージ

毎号毎号、繰り返し使ってきた『餌付け』ってことば思

い出して。獣害、獣害っていうけど悪いのは獣じゃなくてあなたが自分で動物を餌付けした結果が獣害だったって話。

それって結局、「ほらほら人間が採らないカキやビワの実いっぱいあるよ、庭のツツジも手入れしないからこんもり茂って潜み場に使えるよ」ってメッセージをあなたが自分で発信し続けているってことに他ならない。

あなたの設置した柵にして、行政が設置した柵にして、効かない柵は結局は「柵さえ探せば餌食えるよ」って負のメッセージ発信してるだけかもです。

10月に刈払い機を使って冬だというのにあなたがのり面に青々と茂らせてしまったハコベやクローバなどの春草は、「オラオラ、山でひもじい思いするより集落に住んだ方がよほど快適だよ」って強烈な負のメッセージだべ。

正のメッセージ

収穫できないくらい高く茂ったカキの木をバツサリ切って、なった果実は全部収穫できるようにすれば、それ

は人から動物への「あんたたちに食わずカキなんて残らないよ」ってメッセージ。

稲刈り済んだ後も電柵の電氣通しておくのは、「田んぼでレンゲ食うのも、風呂代わりのヌタうちするの、近道として田んぼ突っ切るのも禁止、お前の来るところじゃねえよ」っていうイノシシやシカへの強烈なメッセージ。

鬱蒼と茂ってしまった庭木、毎日垂れ枝少しずつチヨキチヨキ切ったり、納屋の奥に山積み不要物少しずつでも処分していくっていうのも「家の周りは安心できるひそみ場、なくなってきたでしょ、そろそろどこかへ引っ越ししんさい。」っていうテン、イタチ、アナグマ、タヌキへのメッセージ。

人から人へのメッセージ

動物と人間の一番の違いは、動物は身軽、人間は身重。動物はヤバイと思ったらずくに逃げたり隠れたり、危険と感じたらすぐ引越すし、食えないとわかったら来ない。人は考える、いろんなもの作りだす、家をつくる、田畑を作る、社会をつくる、地域